

中期目標の達成状況に関する評価結果

奈良教育大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	3
《本文》	5
《判定結果一覧表》	11

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

奈良教育大学は、創立以来の学問・学芸を尊ぶ学風を継承し、高い知性と豊かな教養を備えた人材、とりわけ人間形成に関する専門的力量を備えた有能な教員及び教育者を育てることを使命とする。

その実現のため、学士課程においては、学校教育に関わる多様な資質と教育の現代的課題に応え得る教育実践力を備えた初等中等教育教員を養成するとともに、生涯学習社会における広い意味での教育者、環境・情報・芸術・文化等の教育の多様なニーズに対応する専門的職業人を育成する。

大学院課程においては、学士課程との連携を図るとともに、現職教員及び社会人のリカレント教育を含む高度専門職業人としての、リーダーシップを発揮できる教員及び教育者の養成を行う。

教育大学としての上記の基本的目標を踏まえ、特に以下の事項について重点的に取り組む。

- 1 教育実践における応用ないし再構成が可能な専門的知見を提供し得る、高度な質の教育研究を促進し、高い倫理性の下、実践的指導力を備えた有能な教員及び教育者を養成する。
- 2 多数の世界遺産を有するなど特色ある奈良の自然・地域文化に根ざした「歴史と文化」「環境と自然」等を重視した個性ある教育研究、学際的研究を推進する。
- 3 教育大学の特色を生かした、地元地域への貢献と連携を重視し、地域とともに活力を生み出す大学をめざす。さらに、現職教育を促進するとともに、地域の学校等に対する支援を推進する。
- 4 アジアを広域的な地域の一つとして視野に入れ、教育研究上の国際化を広く推進する。

[個性の伸長に向けた取組]

- 1 持続可能な開発のための教育（ESD）を担うことのできる教員養成
（関連する中期計画）計画1-1-4-1
- 2 資質能力の高い理数科教員の養成
（関連する中期計画）計画1-1-7-1、1-1-12-1

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

平成23～27年度にかけて、宮城教育大学教育復興支援センターと連携し、『東日本大震災教育復興支援』として、被災地に学生ボランティアを派遣（計15回：延べ90名）し、教育に関わる復興支援を行った。さらに、宮城教育大学との連携以外でも岩手県陸前高田市へボランティアを派遣（1回：4名）した。

平成25～27年度にかけて、『陸前高田ひまわりプロジェクト』として、被災地に塩害除去のため植えられていたひまわりの種を持ち帰り、学生による学内実習園での栽培や、奈良県内の100を超える団体・個人の方の協力による栽培で収穫した種を搾油し、ひまわりオイルとして陸前高田市に送っている。また、『陸前高田市ゆめプロジェクト』として、津波で消失した陸前高田市立図書館の再建費用に充てるため、奈良市立図書館の協力を得て、集めた古本を売却した収益を送金している（約3,000冊、45,000円程度）。

さらに、平成24年度より陸前高田市に文化遺産調査団を派遣し、平成26年度に調査研究の成果を報告書としてまとめた。被災を免れた仏像等の文化遺産を調査し、作成したESD教材を現地の小中学校で活用してもらうことで、子どもたちを元気づける被災地支援の一環として行ったものである。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、奈良教育大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	15	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	2	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			2	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好			2	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			3	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好		1	2	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			3	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 平成 24 年度に京阪奈三教育大学連携推進室を設置し、平成 25 年度に教員養成高度化連携拠点を共同設置することにより、3 教育大学の連携事業として 6 つのプロジェクトを推進している。プロジェクトの取組として双方向遠隔授業を行い、奈良教育大学は、継続的に取り組んでいる分野である持続可能な開発のための教育（ESD）に関連する科目を実施するなど、各大学が特色ある科目を開講している。平成 27 年度における開講科目数は 3 教育大学全体で 25 科目となっており、受講者数は平成 25 年度の 1,879 名から平成 27 年度の 2,933 名へ増加している。講義動画ウェブコンテンツの充実として、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて合計 25 本の講義動画ウェブコンテンツを作成、公開している。また、6 つのプロジェクトのうち「スクールサポーター等教育支援人材認証制度の共有」においては、奈良教育大学が実施するスクールサポーター研修・認証制度に他大学の学生が参加するなど、研修の共有を図っている。（中期計画 1-2-2-2）

個性の伸長に向けた取組

- 教職ノートを用い、課題を事前に意識させるとともに、学びの振り返り等に活用できるよう工夫している。教養科目においては、平成 24 年度に社会と文化、人間と科学、教育とキャリアの 3 区分に再編し、「持続可能な開発のための教育（ESD）概論」等の関連する科目を配置している。また、京都教育大学、大阪教育大学及び奈良教育大学の 3 教育大学が連携し、学生が自大学にいながら他大学発信の科目を受講することができる双方向遠隔授業を平成 24 年度後期から実施することにより、各大学の教養科目を提供し合い、充実を図っている。平成 27 年度は、542 名が奈良教育大学の開講科目を受講している。（中期計画 1-1-4-1）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 平成 23～27 年度にかけて、宮城教育大学教育復興支援センターと連携し、「東日本大震災教育復興支援」として、被災地に学生ボランティアを派遣（計 15 回：延べ 90 名）し、教育に関わる復興支援を行った。さらに、宮城教育大学との連携以外でも岩手県陸前高田市へボランティアを派遣（1 回：4 名）した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（16項目）のうち、1項目が「良好」、15項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○3教育大学連携による双方向遠隔授業の実施

中期目標（小項目）「【学士課程】 教養教育及び関連する導入教育科目群を通して、専門の基礎となる幅広く深い教養と学士力（コミュニケーション力、探求力、解決力など）の基礎、職能成長力の基礎を習得させる。」について、教職ノートを用い、課題を事前に意識させるとともに、学びの振り返り等に活用できるよう工夫している。教養科目においては、平成24年度に社会と文化、人間と科学、教育とキャリアの3区分に再編し、「持続可能な開発のための教育（ESD）概論」等の関連する科目を配置している。また、京都教育大学、大阪教育大学及び奈良教育大学の3教育大学が連携し、学生が自大学にしながら他大学発信の科目を受講することができる双方向遠隔授業を平成24年度後期から実施することにより、各大学の教養科目を提供し合い、充実を図っている。平成27年度は542名が奈良教育大学の開講科目を受講している。（中期計画1-1-4-1）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○3教育大学連携による教員養成高度化連携拠点の共同設置

中期目標(小項目)「【学士課程・大学院課程共通】 良好な授業環境と自習環境の充実を図り、情報ネットワーク環境の整備を推進する。」について、平成24年度に京阪奈三教育大学連携推進室を設置し、平成25年度に教員養成高度化連携拠点を共同設置することにより、3教育大学の連携事業として6つのプロジェクトを推進している。プロジェクトの取組として双方向遠隔授業を行い、奈良教育大学は、継続的に取り組んでいる分野であるESDに関連する科目を実施するなど、各大学が特色ある科目を開講している。平成27年度における開講科目数は3教育大学全体で25科目となっており、受講者数は平成25年度の1,879名から平成27年度の2,933名へ増加している。講義動画ウェブコンテンツの充実として、平成25年度から平成27年度にかけて合計25本の講義動画ウェブコンテンツを作成、公開している。また、6つのプロジェクトのうち「スクールサポーター等教育支援人材認証制度の共有」においては、奈良教育大学が実施するスクールサポーター研修・認証制度に他大学の学生が参加するなど、研修の共有を図っている。(中期計画1-2-2-2)

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○学生への経済的支援の充実

中期目標(小項目)「【学士課程・大学院課程共通】 充実した学習環境の整備、学生の立場に立ってサポートする学習支援システムの整備を推進し、その洗練化を行う。」について、平成23年度から新たな学生への経済的支援として、授業料免除可能額を文部科学省が示している免除率による授業料免除可能額に加え、毎年約320万円を大学が負担することとし、全体としての免除額は、平成23年度の約4,870万円から平成27年度の約6,600万円へ増加しており、授業料減免の拡充を図っている。また、東日本大震災に関連して、東北教育復興支援ボランティアを実施し、旅費の負担等の支援を行い、平成23年度から平成27年度にかけて、16回にわたり延べ94名の学生ボランティア等を派遣している。

(中期計画 1-3-1-2)

○3教育大学の連携による教員就職対策の充実

中期目標(小項目)「【学士課程・大学院課程共通】 充実した学習環境の整備、学生の立場に立ってサポートする学習支援システムの整備を推進し、その洗練化を行う。」について、京阪奈三教育大学が連携・協力し、教育の質保証を図ることを目的に、平成22年度に京阪奈三教育大学連携推進協議会を設置している。同協議会の下、学生主体セミナー、教員採用試験説明会、教師塾関係説明会等について情報発信を行っている。また、各大学で実施している説明会等へ他大学学生が参加するなど、3教育大学が連携・協力し、学生主体のセミナーや教員就職対策の充実を図っている。(中期計画 1-3-1-3)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標**1. 評価結果及び判断理由**

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況**(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標**

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

○教育委員会や学校等との連携事業の推進

中期目標(小項目)「地域の学校教育実践、現職研修、及び生涯教育の実践の充実と発展に資するため、地域の教育、文化、産業などの政策形成に活用できる教育研究の成果を広く地域社会に発信する。」について、奈良市教育委員会と連携し、スクールサポート研修を実施している。また、研修の一部については、教育支援人材認証協会が認証しているこどもサポーター(学校活動支援)を取得するための資格プログラムに位置付けている。このほか、奈良市の小学校5校でのESD・環境教育プログラム作成、特別支援教育公開講座の開催等、教育委員会や地域の学校等との連携に基づき、多様な活動を展開するなど、地域の活性化を図り、地域社会への支援を充実している。(中期計画 3-1-1-1)

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○海外大学との連携事業の推進

中期目標(小項目)「欧米の協定大学、東アジアの高等教育機関との連携をより促進させ、教育研究及び学術研究の活性化を目指す。」について、百済と日本の文化に関する学術研究交流の活性化のため、百済の都があった韓国公州市にキャンパスのある公州大学校(韓国)、東京学芸大学と百済文化国際シンポジウムを毎年度開催している。(中期計画 3-2-3-1)

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
<p>【全学】 高い知性と豊かな教養を備え、人間形成に関する専門的力量をもつ有能な教員及び教育者を育てるために、各学位取得及び教育大学として求められる力量の育成と関わる到達目標、方向目標をより明確に定め、各科目の効果的な連携を図る組織的教育力を高める。</p>		おおむね良好	
1-1-1-1	教育に関わる多様な教養（内容的知識）と実践力の基本となる力量（方法的知識・技能）の育成をより組織的に行っていくために、教員及び教育者の養成の目標と各授業科目、教育プログラムの教育責任の関連を明確にする。	おおむね良好	
1-1-1-2	高度専門職業人として、学校教育における高度な教育実践力を備えた、リーダーシップを発揮できる教員の養成を図るために、学士課程と教育学研究科（修士課程及び専門職学位課程）の一貫した教育コースの設置など柔軟な教育課程を編成する。	おおむね良好	
<p>【全学】 教員採用数の動向等も踏まえ、必要に応じ、入学定員や教育組織等の見直しを図る。</p>		おおむね良好	
1-1-2-1	地域における教育活動の意義、入学定員充足実績、就職実績、将来的な社会的ニーズ等を踏まえ、必要に応じて教育課程及び教育組織の再編を行う。	おおむね良好	
<p>【学士課程】 教育に対する課題意識や教職への意欲、或いは、国際社会や地域社会への貢献に意欲を持った学生を獲得する。</p>		おおむね良好	
1-1-3-1	アドミッション・ポリシー（AP）に応じた入学者選抜方法を点検し、適切な改善を図る。	おおむね良好	
<p>【学士課程】 教養教育及び関連する導入教育科目群を通して、専門の基礎となる幅広く深い教養と学士力（コミュニケーション力、探求力、解決力など）の基礎、職能成長力の基礎を習得させる。</p>		良好	
1-1-4-1	教育の現代的課題に対応し得る力量形成のため、専門の基礎となる幅広い教養と学士力養成に向けて、持続発展教育（ESD）などを視野に入れて、導入教育科目群の充実と改善を図る。	良好	優れた点
<p>【学士課程】 教職及び教科専門教育に関する専門的知識と技能等を習得し、教育の理論と実践が統合された専門的能力を有した教員を養成する。</p>		おおむね良好	
1-1-5-1	学校教育教員養成課程では、教職関連科目と教科専門教育科目との体系的な連携をカリキュラム・フレームワークに基づいて具体化するため、教員養成プログラムを作成する。さらに、そのプログラムに基づき、教師の専門的な職能成長の理解と自己啓発力を育成するため、教職実践演習につながる実践科目の配列を工夫したカリキュラム編成を行う。	おおむね良好	

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	<p>【学士課程】 社会の多様な変化、及び現代の科学技術の発展に対応した学際的分野で、専門基礎を身につけ、様々な現代的課題の解決に積極的に関与・活躍する人材を育成する。</p>	おおむね良好	
1-1-6-1	総合教育課程では、各授業科目において目標とする資質・能力基準に基づいて、幅広く高度な各学芸の体系的な連携を具体化する。	おおむね良好	
	<p>【学士課程】 教員及び教育者として個性を発揮し、専門性を伸ばせる教育プログラムの充実を図る。</p>	おおむね良好	
1-1-7-1	教員及び教育者としての力量を伸ばすために、理数教育研究センターをはじめとする各センターや各種教育プロジェクトを中心に、より質の高い教育プログラムを策定し実施する。	おおむね良好	
	<p>【学士課程】 小規模大学、少人数教育の利点を生かして、自主的・主体的な学習を促す授業形態や学習方法を工夫する。</p>	おおむね良好	
1-1-8-1	課題設定能力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を高めるため、TT (Team Teaching)、eラーニング等多様な授業形態により他大学とも連携して実施する。	おおむね良好	
	<p>【学士課程】 学士（教育）として身に付ける資質・能力基準を明確にするとともに、それに基づいた評価基準を策定する。</p>	おおむね良好	
1-1-9-1	学士（教育）としての資質・能力基準を明確にし学習到達度の把握に努めるとともに、成績評価基準のガイドラインの作成、適切な成績評価のための方策を検討・実施し、履修登録単位数制限制度、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）及びGPC（グレード・ポイント・クラス）の検証と改善を行う。	おおむね良好	
	<p>【大学院課程】 学士課程教育で修得した専門的知識・技能を活用でき、教育に関する課題意識と研究への意志及び自己向上意欲を有し、現職教員にあっては、教育実践に内在する課題意識とその解決への意欲を持った学生を獲得する。</p>	おおむね良好	
1-1-10-1	アドミッション・ポリシー（AP）に応じた入学者選抜方法を点検し、適切な改善を図る。	おおむね良好	
	<p>【大学院課程】 高度専門職業人養成及び現職教員研修の視点を踏まえた教育内容の充実を図り、大学院の各専攻の特色を生かしたコースワークに沿った体系的なカリキュラムを編成する。</p>	おおむね良好	
1-1-11-1	理論と実践の統合された、より高度な研究能力と教育実践力の獲得を効果的に進めるために、課程の特徴をさらに明確にした上で、各専攻の教育目標に対応させた体系的なカリキュラムを編成する。	おおむね良好	
	<p>【大学院課程】 教育に関する専門的知識・技能の定着とその応用、教材開発及び教育実践分析等に関する力量形成に寄与する、学習者参加型の授業形態、学習方法を推進する。</p>	おおむね良好	
1-1-12-1	教員と院生が共同で問題解決を行うプロジェクト型授業など、新しい授業方法を充実・発展させ、その効果を検証する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
【大学院課程】 教職開発専攻においては、教育実践フィールドでの研究を重視し、理論と実践の往還を常に院生に考えさせる教育方法・学習方法を推進する。		おおむね良好	
1-1-13-1	専門職学位課程においては、院生の教育実践力の一層の向上のために教育実践研究の方法に関する指導、学びの振り返りの指導を重視し、その効果を検証する。	おおむね良好	
【大学院課程】 修士（教育学）、及び教職修士（専門職）として身に付ける資質・能力基準を明確にするとともに、それに基づいた評価基準を策定する。		おおむね良好	
1-1-14-1	修士（教育学）、及び教職修士（専門職）の資質・能力基準を明確にし、成績評価基準のガイドラインや評価方法の洗練化を図り適切な成績評価を実施する。	おおむね良好	
【学士課程・大学院課程共通】 職能成長の考え方・見通し、自己成長方法の獲得を通じて、学生の職業意識、とりわけ教職意識を高める。		おおむね良好	
1-1-15-1	学士課程においては、キャリア教育プログラムの充実を図り、学生の職業意識・職能成長意識を高めることにより、専門性を生かした教員・教育者等への就職率の向上に努める。とりわけ学生の教職意識を高めることにより、教員就職率60%維持を目指す。	おおむね良好	
1-1-15-2	修士課程においては、高度の専門性とさまざまな教育課題に対応できる実践的指導力を有する教員及び教育者への就職率の向上を、専門職学位課程においては、教員採用試験合格率の高水準維持に努める。	おおむね良好	
【学士課程・大学院課程共通】 到達目標、達成目標を明確にした授業を通して教育活動の成果を明らかにする。		おおむね良好	
1-1-16-1	在学生、卒業・修了生及び卒業・修了生の勤務先等を対象に、大学教育における達成度及び満足度等に関する調査を通して、教育目標に照らした教育成果の検証と評価を行う。	おおむね良好	
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
【学士課程・大学院課程共通】 教育研究の理念・目標に沿った教育組織に対応する教員組織を編制する。		おおむね良好	
1-2-1-1	教育目標を効果的に達成し教育研究に寄与できる弾力的な教員配置を行うとともに、必要に応じて教員組織編制の見直しを図る。さらに、カリキュラムを深化させる上で非常勤講師、任期付教員、特任教員の有効活用を図る。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	【学士課程・大学院課程共通】 良好な授業環境と自習環境の充実を図り、情報ネットワーク環境の整備を推進する。	良好	
○ 1-2-2-1	「知の広場」として図書館機能の充実を図るとともに、教育研究図書・資料等の系統的整備、資料のデータベース化の促進とWebによる検索利用機能の強化等、情報ネットワークを充実させる。	良好	
○ 1-2-2-2	京都教育大学及び大阪教育大学との連携を推進し、資源の相互利用によって教養教育等の大学教育を充実させるとともに、三大学に設置した協議会の下にセンターを置き、教員養成の高度化と質保証を図り、連携のリージョナル化に対応した連携拠点とする。	良好	優れた点
	【学士課程・大学院課程共通】 教育理念・目標に沿った教育の質の改善を行うための組織的な取組をさらに推進する。	おおむね良好	
1-2-3-1	大学教員の職能成長（FD：ファカルティ・ディベロップメント）推進に関する組織（ファカルティ・ディベロップメント（FD）室）を設置し、教育に関する点検・評価を実施し、その結果に基づき教育の質の改善を図る。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
	【学士課程・大学院課程共通】 充実した学習環境の整備、学生の立場に立ってサポートする学習支援システムの整備を推進し、その洗練化を行う。	おおむね良好	
1-3-1-1	メンタルヘルス、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントなど、学生の人権に配慮した取り組み（生活相談及びカウンセリング）を検証し、相談・救済などのシステムの充実を図る。	おおむね良好	
1-3-1-2	後援会との連携による新たな経済支援や、学生ボランティア等の課外活動への支援など、本学独自の支援体制を充実する。	良好	特色ある点
1-3-1-3	京都教育大学、大阪教育大学及び奈良教育大学の連携協力を推進し、学生主体のセミナーや教員就職対策を充実する。	おおむね良好	特色ある点
	【学士課程・大学院課程共通】 学生の多様な進路に対応する就職支援・就職指導を全学共通の重要課題と位置づけ、教職員を含めた全学的な就職支援体制の充実を図る。	おおむね良好	
1-3-2-1	就職ガイダンス等の支援プログラムの改善、就職情報の収集及び活用、就職相談活動の拡充など、キャリア教育を含む就職支援・就職指導バックアップ体制を充実するとともに、追跡調査や卒業後のアフター・ケアも生かした卒業後支援体制を充実させる。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		おおむね良好	
学問的動向、現代的な教育課題を含む社会的要請に応える研究を教育科学、教科教育学、教科内容学においてさらに進める。		おおむね良好	
2-1-1-1	教育科学、教科教育学及び教科内容学の各研究分野で質の高い研究を実施することにより、教育との不可分性・相関をさらに強化する。その水準・成果の検証に当たっては、第三者評価を実施する。	おおむね良好	
地域の歴史、文化、環境、自然、産業の特色を反映した個性ある研究、理数教育等の専門的かつ実践的研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-2-1	様々な教育研究課題に対応するため、学内外を通じて学際的研究及び実践的研究を推進する。	おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
研究組織の硬直化を避け活性化を促すため、教員の弾力的な配置を行う。		おおむね良好	
2-2-1-1	研究プロジェクトに対応して、特任教員の配置なども含む弾力的な研究グループを組織する。	おおむね良好	
研究の質の向上を促すため、研究費の確保を行いつつ、学内研究資金配分システムの洗練化を図り、外部資金の獲得を推進する。		おおむね良好	
2-2-2-1	研究の質の維持向上を図るため、基盤的研究費を確保し、教員及び組織の評価結果を競争的経費に反映させ配分するほか、研究支援体制を強化して外部資金の申請を促進する。	おおむね良好	
研究の活力を維持発展させるため、研究棟、共同利用設備等の計画的な研究環境の整備を進める。		おおむね良好	
2-2-3-1	研究室、実験室等の整備、設備の共同利用計画の策定と促進を行い、学長裁量経費に基盤研究、重点研究、タイムリーな研究などの研究枠を設けるとともに、評価に応じた計画的な研究環境の整備を進める。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
地域の学校教育実践、現職研修、及び生涯教育の実践の充実と発展に資するため、地域の教育、文化、産業などの政策形成に活用できる教育研究の成果を広く地域社会に発信する。		良好	
3-1-1-1	各センターを中核に地域社会を支援するための体制を充実させ、生涯学習、人材育成、文化、国際交流、理数教育等に関する共同事業や支援事業、さらに、教育相談、現職教員への指導（教員免許状更新講習を含む）等を実施し、地域の活性化に資するほか、教育研究の成果を教育現場、県市町村自治体、文化施設・団体、産業界等に還元するための情報発信を積極的に行う。	良好	優れた点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
産学官連携の下での共同研究・学際的研究を進めるとともに、産学官連携のための支援システムの充実を図る。		おおむね良好	
3-1-2-1	奈良県、奈良市及び関西圏をはじめとする自治体、NPO、企業、文化団体等との連携による研究プロジェクトを実施するなど、システムの充実に資する。	おおむね良好	
歴史・文化発祥の地としての奈良の魅力を広く社会人に伝え、受け入れを推進する。		おおむね良好	
3-1-3-1	社会人の受入促進を図るため、社会人入学前プレプログラム（公開講座などと連携）として、奈良で学ぶ社会人のための独自プログラムを策定し実施する。	おおむね良好	
② 国際化に関する目標		おおむね良好	
歴史・文化発祥の地としての奈良の魅力を広く留学生に伝え、受け入れを推進する。		おおむね良好	
3-2-1-1	教員研修留学生を積極的に受け入れるとともに、外国人留学生の受入促進を図るため、奈良で学ぶ留学生のための独自プログラムを実施する。	おおむね良好	
留学生の交流、その他諸外国等との教育研究上の交流（交流大学間での大学教員・大学院生の相互派遣を含む）を促進するための支援システムを整備する。		おおむね良好	
3-2-2-1	学術交流基金等の整備により、外国人研究者の招聘、海外協定大学間での教職員及び学生の交流を充実する支援システムを策定し実施する。	おおむね良好	
欧米の協定大学、東アジアの高等教育機関との連携をより促進させ、教育研究及び学術研究の活性化を目指す。		おおむね良好	
3-2-3-1	欧米の協定大学、東アジアの高等教育機関と、研究者・院生の交換交流と共同研究を推進し、教員養成を中心とする高等教育の教育方法、評価方法の改善に寄与する研究及び奈良の歴史・文化研究の交流を図る。	おおむね良好	特色ある点

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>第2期中期目標期間においては、京都教育大学及び大阪教育大学との連携により、教養教育等大学教育の充実を図ることを目指した計画を進めている。平成24年度に京阪奈三教育大学連携推進室を設置し、平成25年度に教員養成高度化連携拠点を共同設置することにより、3教育大学の連携事業として6つのプロジェクトを推進している。プロジェクトの取組として双方向遠隔授業を行い、奈良教育大学は、継続的に取り組んでいる分野である持続可能な開発のための教育（ESD）に関連する科目を実施するなど、各大学が特色ある科目を開講している。平成27年度における開講科目数は3教育大学全体で25科目となっており、受講者数は平成25年度の1,879名から平成27年度の2,933名へ増加している。講義動画ウェブコンテンツの充実として、平成25年度から平成27年度にかけて合計25本の講義動画ウェブコンテンツを作成、公開している。また、6つのプロジェクトのうち「スクールサポーター等教育支援人材認証制度の共有」においては、奈良教育大学が実施するスクールサポーター研修・認証制度に他大学の学生が参加するなど、研修の共有を図っている。</p>
-----	---